

Traverse City 学校視察

公立 Traverse Heights 小学校

トラバースシティ市内の公立の学校（年少から5年生）に8月7日に訪問をした。

6月初旬から8月末までの夏休み期間中で通常クラスはなかったが、夏の補講クラスを見学することが出来た。アメリカの夏休みが長いのは昔、小学生も農作業の重要な担い手だったことによると、Ryan Schrock 校長は説明をくださった。この補講クラスは Reading が弱い生徒に無料でレッスンが用意されている。教師は報酬を受け取っている。



この補講は Traverse Heights 小学校の生徒だけでなく、同じ学区の生徒も5台のバスを使って参加している。7週に渡って月曜日から木曜日、9時から12時まで勉強をする。1クラス12～15人のクラスを先生1人と先生助手1人で教える。寄付されたり、図書館でいらなくなった本を4～5冊ずつ参加生徒はもらえる。スナックももらえる。

普通貧困家庭からの子供の率は30%前後だが、この学校は87%が福祉給食を与えられている。朝食と昼食の1日2回である。また、普通は学習障害などの障害を持つ生徒は7～10%だが、この学校は25%にも上る。

また、ミシガン湖のほとりのきれいな町なので、観光客も増加していて、年々不動産価格が上昇し、若い世帯が流入出来ない。最近も小学校が2校閉校した。

この学校は音楽や体育にも力を入れている。ペダルをこぎながら Reading をすると学習効果が高いとの事例もあると Ryan 校長は熱く語っていた。子供は室内でゲームをする時間が多すぎるので、ポケモンGO がもう流行っていないのが残念だと話していた。

「生徒には将来何になりたいと聞くのではなく、世界をどう変えたいかと聞く。」と校長先生は言う。「学校にどうして来るかは、親が行けと言うので、来るのではなく、世界を自分が思ったように変えていくにはどうしたら良いかを考えさせる。人間として満足するにはどうすべきかを考えさせる。」と言う。



成績上位の学校から最近、この下位の学校に移動して来たとのことだが、このように熱心な校長先生の元なら必ず高い成果が出ると感じた。

<http://www.tcaps.net/schools/elementary-schools/traverseheights/>



私立 The Children's House



トラバースシティの中心部から少し離れたところにモンテソーリ方式の私立 The Children's House (幼児～中学生) を 8 月 10 日に訪問した。この学校も夏期講習期間であった。

イタリアのマリア・モンテッソーリ医師が 20 世紀初頭に考案した教育方に基づいて教育を行っている学校である。ビーズや木製板、円柱、棒、カードなどを使用し、触って確かめる感覚教育法を取り入れている。

先生が主導するのではなく、生徒が自主的に学ぶ方式である。自主性、独立性、知的好奇心を育てる。

幼児のクラスから 3 才ずつ位の年齢で一緒にクラスを行っている。上級生が下級生を指導すると共に下級生も気がついたこと、得意なことがあったら上級生をも指導する相互の助け合い大切な教育方針である。

私立なので、州からの助成金はなく、90%が学費、10%が寄付で成り立っている。



中学校を卒業すると一般の高校に進学するので、その時に自由で自主的な学習方法の学校からの移

動は問題がないかとの質問に、変化をいかに自分の中に取り込み、消化し、前に進んでいくかが大切だとミッシェル先生は答えてくれました。

熱心な先生方と若くてきれいな Michele Shane 校長先生が心を込めて教育をしていることが伝わってきた。



<http://www.traversechildrenshouse.org/>

アメリカ ミシガン州 Traverse City 学校視察(2017/08/10)
あぜりあ Language School 校長勝山ひとみ